

## 5 区議会議員の視点から

昨年、当初予算編成時にオリンピック視察の予算を計上し、平成 28 年度予算特別委員会に於いて、この予算を含む平成 28 年度予算は賛成多数で承認され、第一回定例会の最終本会議において議決された。4 月頃より舛添要一前都知事の公用車による湯河原の別荘通いが連日マスコミを賑わすその内容は高額な海外視察にまでメスを入れられ、その矛先は都議会議員や区議会議員のリオデジャネイロ オリンピック・パラリンピックの高額な視察の必要性まで言及された。4 年後の東京オリンピック・パラリンピック（以降、競技大会）開催地である都議会議員ですら視察を取りやめにすることを決定した。

リオデジャネイロオリンピックを視察することの何が大切か。議員がその視点で物事を肌で感じ受け止める。議員二人がこの視察に同行する意味を行政として理解し、それを品川区政ひいては品川区議会の発展のために政策を実現させること。ことさら競技大会の競技開催区として成功させることは大切であるが、それ以上に大会終了後のスポーツ振興、文化芸術の振興、伝統文化の継承、国際競争に打ち勝つ事ができる総合的なまちづくりに繋げ、後世に引き継ぐことができる品川区を創出することが大切であり目的でもある。

本報告書は自民党・子ども未来 渡辺裕一、民進党・無所属クラブ いながわ貴之の共著で作成し、行政との重複項目はあるにせよ、議員の視点と行政の視点は違うことを明確にするため、議員の立場での視点や政策提言等を記載する。

今回のリオデジャネイロオリンピック視察は単に 4 年後に東京で開催される競技大会成功のために現地での運営や取り組みを見るだけではなく、品川区の総合的（文化・スポーツ振興等も含む）な、まちづくりにどのように活かすかにある。

行政と行った全ての調査項目において区議会議員の視点と政策提言を記載し実現するべく会派としても取り組んで行く。





等によって欠落している調査事項についてはご理解いただきたい。

視察の結果や主観については時系列に報告書を作成する。尚、東京都とブラジルの都市環境を安易に比較することはできないが、五輪会場周辺等のまちづくりに関して主観で感じた事、それに対して何を政策提言すべきか、区や都、国、組織委員会にまたがる提言になるかもしれないが報告書にはそれを記載する。



## 第2章 時系列による各種視察報告

### 1 視察団出発から GIG 到着

日本時間 8 月 5 日 14:05 に羽田空港国際線ターミナルを出発 18:50 フランクフルト<sup>2</sup>に到着（日本時間：8 月 6 日 1:50）22:15 フランクフルト出発（日本時間：8 月 6 日 5:15）リオデジャネイロに向け飛び立つ。視察団それぞれの服装は、長距離フライトやリオ到着時の自己防衛に鑑み通常の視察では考えられないが、比較的ラフの様相（写真 2-1）であった。

世界有数のハブ空港でもあるフランクフルト国際空港でのトランジット。リオデジャネイロ国際空港へのゲートではリオデジャネイロオリンピックの醸成ムードが漂い、ドイツ選手の紹介等がされていた。（写真 2-2）

2020 東京五輪開催時も近接国のハブ空港において、このような醸成や「おもてなし」が必要と考える。長時間のトランジットを飽きさせない工夫が必要である。



写真 2-1 羽田空港チェックイン前の視察団  
空港職員撮影



写真 2-2 フランクフルトでの  
搭乗ゲート付近の様相 筆者撮影

<sup>2</sup> 日本国とフランクフルトの時差は-7 時間

8月6日6:00(日本時間:8月7日18:00)アントニオ・カルロス・ジョビン国際空港(GIG)に到着し入国審査・税関検査に向かう空港内は早朝であるにもかかわらずゲストやオリンピック競技出場選手等が多く行きかっていた。(写真2-3、2-4)入国審査に向かう長蛇の列。この場所からでは何のために並んでいるかがわからない。視察団もとりあえず並んだ。結果、入国審査(写真2-5)であった。ここでは、担当が案内をしていたが、理解に苦しむ点があった。よって空港内もピクトグラムを用いたサイン表示を設置することが混乱を防ぐ一つの手法と考える。ビジネスや観光等での最初が入国審査である。入国審査自体の時間は数十秒であったことを考えると、並び方、審査窓口の設置、誘導の工夫が必要と考える。



写真 2-3 GIG 入国審査への列 筆者撮影



写真 2-4 GIG 入国審査への列 筆者撮影

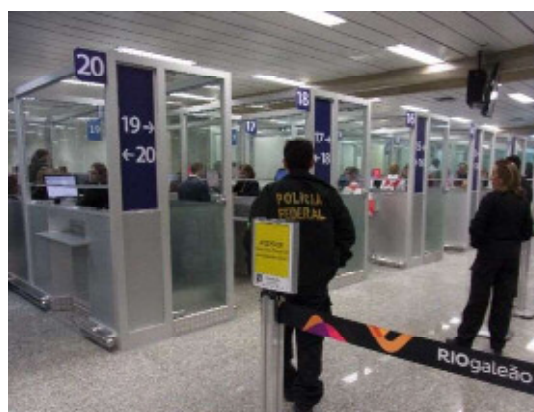


写真 2-5 GIG 入国審査 窓口 筆者撮影



写真 2-6 出口手前の  
 トランスポートサービス 筆者撮影

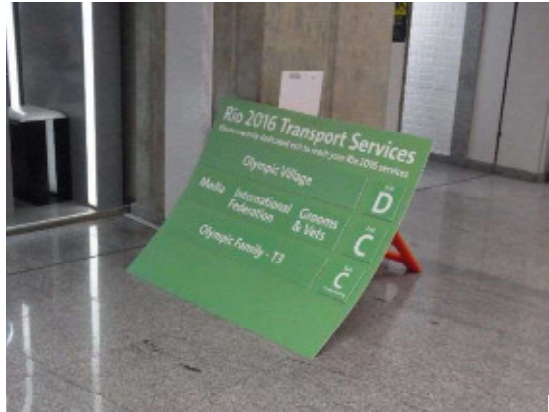


写真 2-7 トランスポートの  
 サービス看板 筆者撮影



写真 2-8 出口での出迎えの様子 筆者撮影



写真 2-9 出口での出迎えの様子 筆者撮影

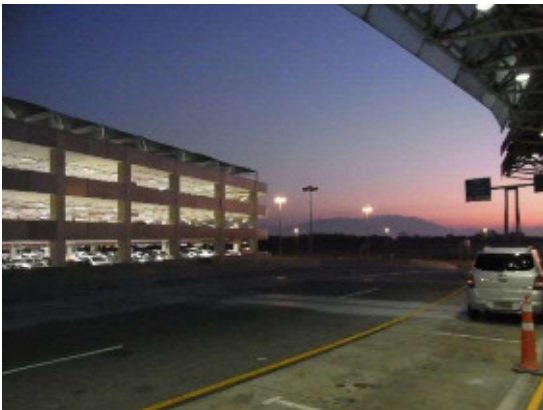


写真 2-10 バス乗車場所からの様相 筆者撮影



写真 2-11 バス乗車場所での待機 筆者撮影



無事に入国審査を済ませた。荷物をピックアップし出口へ向かう途中には五輪関係者（選手・プレス関係者等）の宿泊施設までのトランスポートサービスの窓口が設置され数か所に案内看板が設置されていた。（写真 2-6、2-7）日本国内においても大手宅配会社が空港から宿泊施設等までの往復等の宅配サービスはすでに行われている。こうした現状の中、東京開催時にはさらにきめ細やかで、かつ、幅広いサービスを行う必要があり、区内運送事業者との連携も必須と考える。

ゲートを出ると旅客の迎えで混雑していた。特に日本国からの個人、企業のゲスト（観戦客等）が多いことが見受けられる。（写真 2-8、2-9）こうした光景は日本国内の観光地でも見受けられるが、ここまで多くの出迎えがあると混乱を招く可能性が危惧される。よって何らかの出迎える仕組みを考えることも必要である。

無事アテンドと合流してバス乗車場所へ移動。外はまだ日の出前の薄暗い風景であった。空港から中心市街地に向かう幹線道路は予想していた通りの悪路で車内から市街地の写真撮影は苦慮した。写真のブレはお許しいただきたい。

市街地の様子（写真 2-12、2-13）は、想像以上に老朽化した家屋が立ち並び、いたるところの壁面には落書きがされていた。これを落書きと表現するべきかアートと表現するかは難儀である。一方で、こうした潜在的な能力を街中のアートに生かすことも大切と考える。

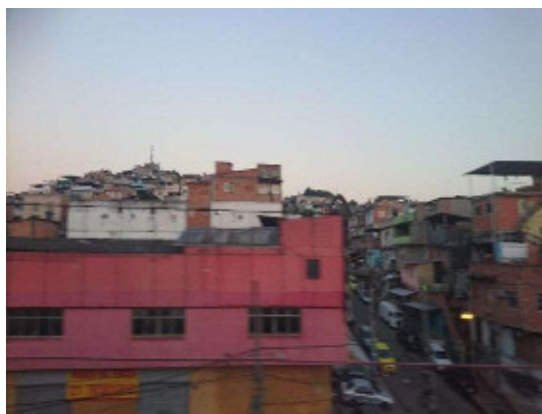


写真 2-12 バスからの市街地の様子 筆者撮影



写真 2-13 バスからの市街地の様子 筆者撮影



写真 2-14 宿泊ホテルの様相 筆者撮影



写真 2-15 中心市街地の雨水溝の様子 筆者撮影



写真 2-16 中心市街地の段差の様子 筆者撮影

陽も登り **6:45** に宿泊ホテルである **Hotel Savoy Othon** (サヴォイオートン ホテル) に到着。(写真 2-14) **7:00** にホテル手続き等を行い **7:35** オートンプレイス (姉妹ホテル) へ朝食の打診をしたが、オリンピック開会中は宿泊者優先のため断られた。

オートンプレイスに近接する歩道の雨水溝は鉄製で格子の幅が広く安全性等に欠く造りであった。

(写真 2-15) 歩道は碎石した石材を利用している。(写真 2-16) ブラジルでは石の文化があり、このような造りになる。一見洒落た造りであるが歩いてみると凸凹感が足に伝わり、人によっては躓き転倒することが危惧される。縁石はコンクリートではなく石を削って造られており、破損しても放置の状況が見受けられる。こうした構造を考えると真の意味でのバリアフリーはアスファルトやコンクリート等の段差が生じない構造を取り入れることが必要と考える。



写真 2-17 モーニングセット 筆者撮影



写真 2-18 Café のメニュー 筆者撮影



**7:45** 近隣のカフェ **Café Bar Stalos** にて来伯して初めての朝食。食事の値段は日本国内より安いか同じぐらいであった。(写真 2-17、2-18)言葉が通じない国では注文する際に写真を指差して理解してもらう事がありがたい。文字のみのメニューではなく写真入りのメニューが注文する際にスムーズである。日本国内の大手飲食チェーン店では、写真を取り入れたメニューをよく目にする。品川区において今後、増加する外国人観光客(以降、ゲスト)に対して、こうした工夫は必要と考える。品川区内の個人が経営する飲食店等には、外国人の受け入れ対策の一環として、メニュー等の外国語表記や写真入りメニューの作成等の取り組みに対してバックアップする必要があると考える。

2章2節からは、1日を項で区切り報告する。

## 2 8月6日視察初日【日本時間：8月7日】

### (1) オリンピックブルバード視察<sup>3</sup> 視察時間：9：30～13：00

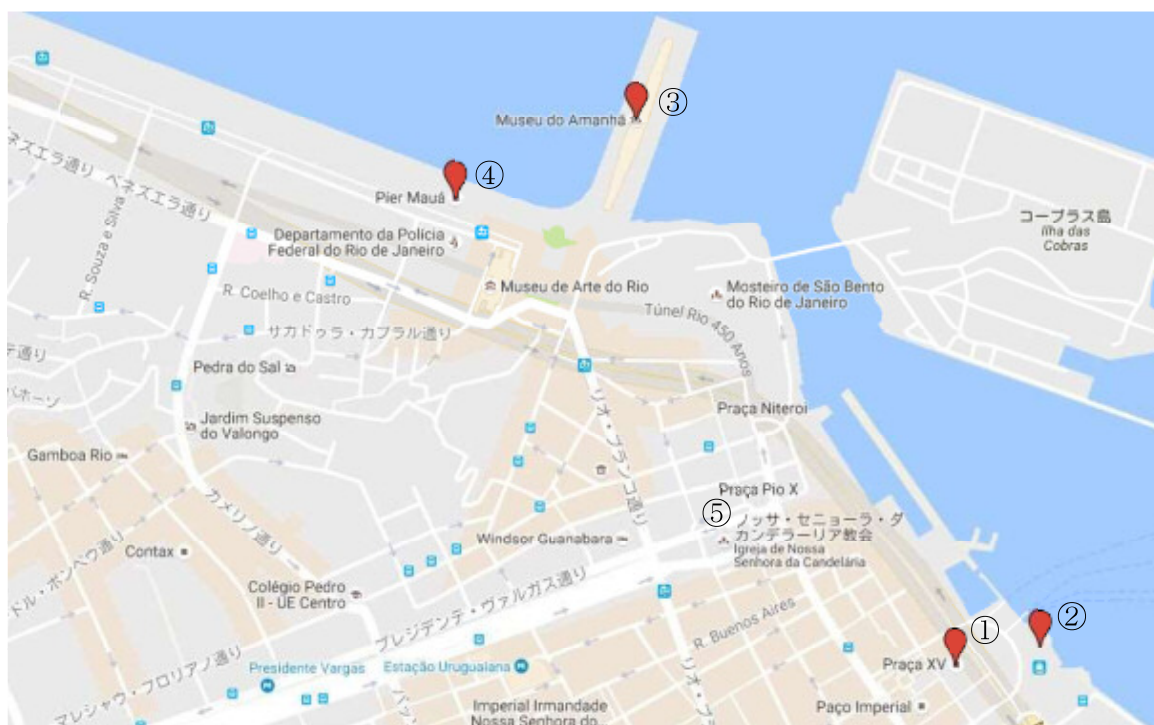


図 2-1 Centro オリンピックブルバード境界の地図 Google Map より筆者作成

オリンピックブルバード境界（図 2-1）を徒歩視察。オリンピックのムードを高めるための工夫がされている。Praça XV（図 2-1①）よりスタート。既存の公園を利用して開催されていた。入口にはスポンサーの名前が入ったゲート（写真 2-9）やブルバード内にはオリンピックのモニュメント（写真 2-20）、理解できるサイン表示（写真 2-21～2-23）が設置されていた。午前中の早い時間帯だったのでステージ（写真 2-24）での催しはなかったものの、ブルバード内は多くの人々で賑わっていた。



写真 2-9 オリンピック  
ブルバード入口 筆者撮影

<sup>3</sup>ブルバード境界の五輪関連催事、NOC House（Brazil House）調査 Centro 地区



写真 2-20 オリンピックブルバード内  
モニュメント 筆者撮影



写真 2-21 会場内サイン 筆者撮影



写真 2-22 ブルバード内  
案内図 筆者撮影



写真 2-23 公共交通アクセスサイン 筆者撮影

サイン表示やゲストを楽しませるための工夫はされているが、人々が行きかう路面（道路）は劣化（写真 2-25、2-26、2-28）が激しく、マンホール（写真 2-27）が浮き出ていると躓きや転倒の恐れは拭き切れない。バリアフリーには程遠い。そもそも、こうした事を気にしない国民性なのかもしれない。

しかし、これを品川区に置き換えたとき、国民性とは言えない。区内にもこうした劣化箇所がないとは言い切れないので通常行っている都市環境の整備を、さらにきめ細やかに人々にやさしいまちづくりを実行していく必要がある。



写真 2-24 パブリックビューイングと  
ステージ 筆者撮影





写真 2-25 路面の現状 1 筆者撮影



写真 2-26 路面の現状 2 筆者撮影



写真 2-27 路面の現状 3 筆者撮影



写真 2-28 路面の現状 4 筆者撮影

次に向かったのは対岸の Niterói（ニテロイ）との間を往来している船舶が接岸する港（図 2-1②）CCR Barcas（写真 2-29、2-30）周辺は人々で賑わいをみせていた。付近には国内線が離発着する空港、地下鉄、VLT（路面電車）があり、利便性に富んだ地区である。この状況においても下船口付近にはシェアサイクルの駐輪場が設置されていた。

（写真 2-31,2-32）そこには、近隣のシェアサイクル駐輪場の地図が設置されており利用者も多いようだ。東京開催時における悩みの一つは渋滞である。それを解消する手法にシェアサイクルは否定できない。今後の品川区が掲げる都市型観光に必要な不可欠になるのではないか。



写真 2-29 港への案内板 筆者撮影



写真 2-30 港の周辺 筆者撮影



写真 2-31 シェアサイクルの地図  
筆者撮影



写真 2-32 シェアサイクル 筆者撮影

続いて視察団は Museu do Amanhã（図 2-1③写真 2-33）方面に足を延ばした。路面の凸凹等は気にならず、むしろ人々の多さと最高潮の賑わいに圧倒された。（写真 2-46、2-47）ブルバードには五輪スポンサーのアトラクションがあり、クレーンを利用したバンジージャンプ（写真 2-34）と固定式の熱気球（写真 2-35）が人気を集めていた。



写真 2-33 Museu do Amanhã 全様 筆者撮影





写真 2-34 スポンサーアトラクション  
バンジージャンプ 筆者撮影



写真 2-35 スポンサー  
アトラクション 熱気球 筆者撮影

ノッサ・セニョーラ・ダ・カンデラーリア教会(図 2-1⑤)の広場にはオリンピック聖火(写真 2-47)があり周辺では賑わいを見せており、こうした工夫もブルバードには必要である。足を進めると五輪の公式ショップ(写真 2-36)やスポンサーの飲料販売店(2-37)も立ち並ぶ。しかし、旅行会社もしくはチケットセンターなのか開催してもなお工事が終わっていない現状は否めない。(写真 2-38)



写真 2-36 公式グッズ販売店 筆者撮影

こうした賑わいを裏方で支えるリオ市清掃局。等間隔にゴミ箱を設置している。ゴミ箱の色で分別を促しているのかもしれないが(写真 2-39、2-41)特に分別の有無は表記されていないが、ごみを持ち歩くことなく快適にブルバードを楽しむことが出来る。特に喫煙場所はないが灰



写真 2-37 飲料スポンサーの店 筆者撮影

皿付きのゴミ箱(写真 2-40、2-42)が設置してある場所がそれなのかもしれない。基本、たばこのポイ捨てや歩きたばこについては、咎められない。こうした中、感心したことは、リオ市の清掃局員(写真 2-43)が数十か所に立ち掃除をしている事や自転車にゴミ箱を積んでいる移動式のゴミ箱(写真 2-44)には評価するべきものである。



写真 2-38 未完成の  
チケットセンター 筆者撮影



写真 2-39 リオ市清掃局のゴミ箱 筆者撮影



写真 2-40 上部に灰皿付きのゴミ箱 筆者撮影



写真 2-41 等間隔に並ぶゴミ箱 筆者撮影



写真 2-42 上部に灰皿付きのゴミ箱 筆者撮影

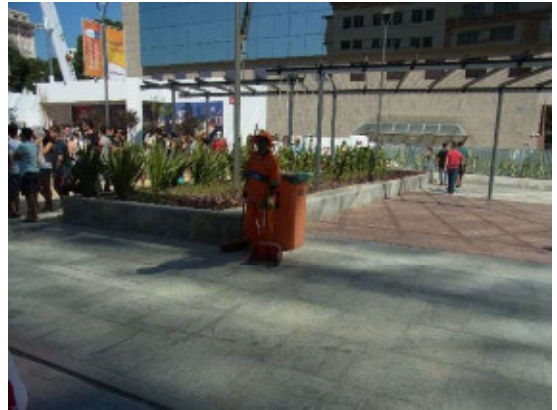


写真 2-43 清掃する清掃局員 筆者撮影



可能であれば分別を行うべきと考える。分別を考えない国民性なのか。どちらにしても多くの人々が訪れることを考えるとゴミの問題や課題は山積みである。品川区も対応策を講ずる必要性がある。

上記で記述したが分別に関しては、徹底的に行う必要がある。視覚でわかりやすくするためにも色分けは必須。ポイ捨てをゼロにすることを考えると、大量のゴミ箱の設置が必要になってくる。このゴミ箱を税金で購入して準備することも安易に考えられるが、区内企業等の協賛を募りゴミ箱に広告を載せることも考えられ、江戸情緒を出すのであればボランティアがゴミ箱を背負い会場周辺等を行き来することもゲストを喜ばせる一つの要素になるかもしれない。品川区はこうした事を創造し準備を進めるべきである。



写真 2-44 清掃局員と自転車 筆者撮影



写真 2-45 ブルバードは最高潮の賑わい 筆者撮影



写真 2-46 ブルバードは最高潮の賑わい 筆者撮影



写真 2-47 ノッサ・セニョーラ・ダ・カンデラリア教会と聖火 筆者撮影

長蛇の列に並び(写真 2-48) NOC House (Brazil House) へ入場。(写真 2-49) (図 2-1④) ホスト国のハウスなので場内は込み合っていた。

(写真 2-50)このブラジルハウスは既存の倉庫を一時的に借りて整備されたものである。こうした各国のハウスがリオ市内に点在するが、どれもオリンピック数年前より打診をして最低でも2年前までに契約を交わすようだ。後述するブリティッシュハウスも1年8か月前には契約が済んでいたようだ。

ブラジルハウスの湾側には大型クルーズ客船ノルウェージャンゲッタウェイ(写真 2-51)【総トン数145,655トン、全長324メートル、全幅40メートル、乗客定員数3,969名、乗組員数1,640名】が接岸していた。写真では伝わらないが圧巻であった。

東京都は晴海客船ターミナルに大型クルーズ客船が接岸できないため、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会までに新たな客船ふ頭(図 2-2)の整備を進めて



写真 2-48 ブラジルハウス入場の列

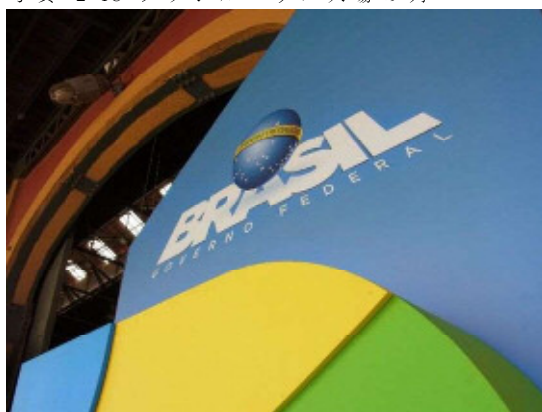


写真 2-49 ブラジルハウスの入口 筆者撮影



写真 2-50 ブラジルハウス内 筆者撮影



写真 2-51 停泊中の大型クルーズ船 筆者撮影

いる。上記の通り大型クルーズ客船が一回接岸すると3,000名を超える乗客が一時的に東京都に下船する。こうした乗客をいかにして品川区にゲストとして来て頂けるかにある。品川区観光振興協議会のさらなる創造性・独創性の観光誘致に期待をする。





図 2-2 新客船ふ頭予定地と品川区の位置関係 Google Earth より筆者作成

ブラジルハウスを後にブルバードを戻りながら市街地に入る。途中にはブルバード沿いに VLT(写真 2-52) の軌道が敷設されていた。VLT (写真 2-53) はオリンピックに合わせて開通した。今後、市街地とブルバードをつなぐ、バスや地下鉄と合わせて市内の公共交通の利便性を向上するものである。このことは、日本貿易振興機構 (JETRO) の 8 月 23 日付の通商弘報において下記の通り称賛されている。

～リオ五輪後を見据えた新しい観光名所～

オリンピック開催でリオデジャネイロを訪れた観光客の注目を集めていたのが、全長 3 キロのオリンピックブルバードだ。五輪開催に合わせた都市開発計画の 1 つとして建設され、この地区では五輪開催中に政府が連日、ビジネス関連イベントを開催していた。国内線専用の空港に近く、トラム VLT (路面電車)



写真 2-52 VLT の軌道と駅 筆者撮影



写真 2-53 VLT と駅 筆者撮影



開通によりアクセスが良いため、外資系企業も新たなビジネス拠点として注目している。<sup>4</sup>

視察団はブルバードを後にしてマウアー広場を横切り VLT が走っているリオ・ブランコ通り（写真 2-55）を徒歩にて市街地を視察。マウアー広場の前方にある雑居ビルの歩道部には仮設便所（写真 2-54）が設置されている。ブルバードでは気にならなかった段差（写真 2-57）や路面（写真 2-56）の破損が目立った。特に写真 2-57 は危険性が高い。大通りから路地に入ると極端に人の流れが少なくなる。（写真 2-58）リオ・ブランコ通り沿いはビルが立ち並び大都会を思い起こさせる光景だった。大通りは渋滞していた。（写真 2-59）



写真 2-54 仮設便所 筆者撮影

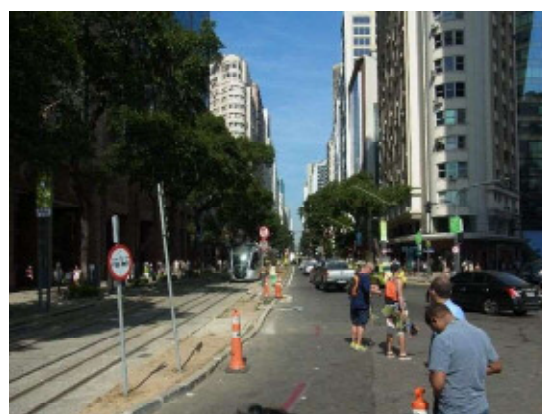


写真 2-55 VLT 軌道  
リオ・ブランコ通り 筆者撮影



写真 2-56 市街地の道路と縁石 筆者撮影

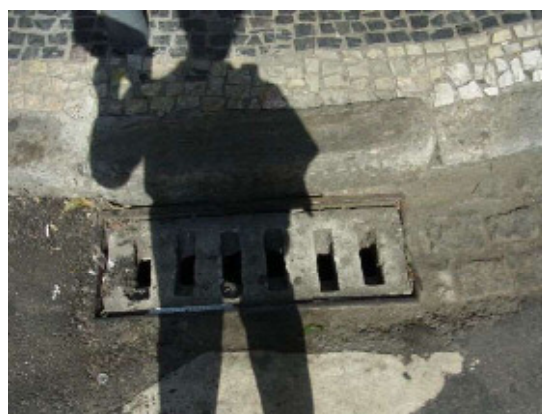


写真 2-57 大きな格子の雨水溝 筆者撮影

<sup>4</sup> JETRO（日本貿易振興機構）ホームページより引用 2016年8月23日 世界のビジネスニュース（通商弘報）より引用



写真 2-58 路地 筆者撮影



写真 2-59 大通りの渋滞 筆者撮影

## (2) オリンピックミュージアム 視察時間：13：30～14：00

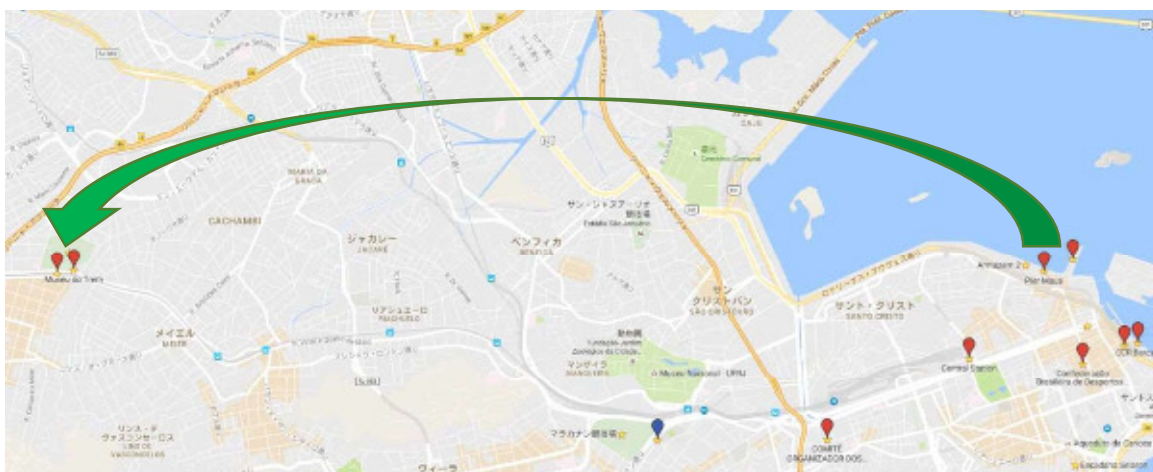


図 2-3 プルバードよりオリンピックミュージアムとの位置関係 Google Map より筆者作成

リオ・ブランコ通り沿いでバスと合流して競技大会の開会式閉会式が行われるマラカナン競技場<sup>5</sup>（写真 2-60）を横目に次の目的地、オリンピック シティー ミュージアム（**Engenho Novo**）<sup>6</sup>へ向かう。線路南側の一方通行の幹線道路を通り約 30 分の道のりだった。幹線道路沿いには老朽家屋（商店等 写真 2-61）が立ち並び、この付近で競技が行われるとは思えない光景であった。多少スタジアムから離れていたせいか警察等の車両は目にしなかった。13:30 にオリンピック シティー ミュージアム（写真 2-62、2-63）に到着。30 分ほどの視察を行った。Engenho de Dentro（写真 2-64）が最寄り駅。Olympic Stadium（Engenhão）<sup>7</sup>（写真 2-65）が隣接している。駅の南口（写真 2-66）より改札前を通り線路を越え北口に向かい競技場に隣接するミュージア

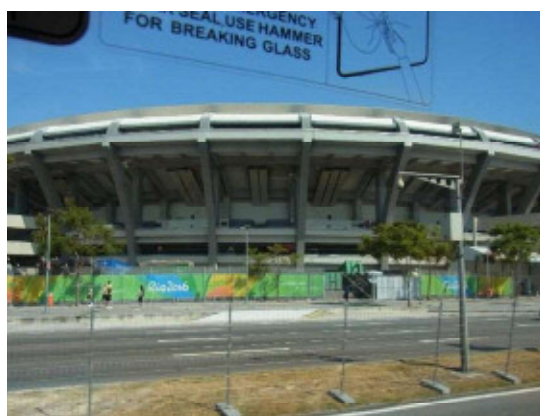


写真 2-60 マラカナン競技場  
走行バス内より筆者撮影

<sup>5</sup> 世界的にも有名なスタジアム。約 7 万 8 千人の観客を収容し、五輪の目玉でもある開会式・閉会式の会場となるほか、サッカー男女の決勝戦も行われる。1950 年に開催されたサッカー W 杯の決勝リーグ最終戦で、ブラジル代表がウルグアイ代表に敗れた「マラカナンの悲劇」の舞台として知られる。2014 年のサッカー W 杯に合わせて近代化が図られた。世界的にも有名なスタジアム。約 7 万 8 千人の観客を収容し、五輪の目玉でもある開会式・閉会式の会場となるほか、サッカー男女の決勝戦も行われる。1950 年に開催されたサッカー W 杯の決勝リーグ最終戦で、ブラジル代表がウルグアイ代表に敗れた「マラカナンの悲劇」の舞台として知られる。2014 年のサッカー W 杯に合わせて近代化が図られた。

<sup>6</sup> リオデジャネイロの既存の歴史博物館（鉄道）をオリンピック シティー ミュージアムとして改修。

<sup>7</sup> 2007 年のパンアメリカン競技大会の際に建設した。五輪では陸上のトラック種目、フィールド種目のほか、サッカー 1 次リーグの試合にも利用される。五輪に向け、1 万 5 千席の仮設スタンドを増設して収容人数を約 4 万 5 千人から約 6 万人に拡大。陸上のトラックも最新型に作り替えた。公益財団法人日本オリンピック委員会第 31 回オリンピック競技大会 競技場紹介引用



ムへ。駅改札内には自動小銃を持った軍（写真 2-67）が警備をしていた。駅広告にはパラリンピックの広告（写真 2-68）が設置されていた。道路から改札までは長いスロープで折り返す構造（写真 2-69）だが緩やかな長い勾配（写真 2-70）があり、果たしてバリアフリーといえるのか。ゆるやかであっても長い坂はバリアになるのではないか。都市開発課長は持参したスケールで角度を測った。（写真 2-71）開会式も終わり賑わいを見せているかと思ったが、ミュージアム、競技場周辺は閑散としていた。（写真 2-72）スタジアムに敷設されているチケットセンターも閉まっていた。（写真 2-77）なおミュージアムは諸事情により入館することが出来なかった。既存のスタジアムのため周囲には真新しい健康器具（写真 2-73）やサイクルロード（写真 2-74）が整備されていた。一方で路面の劣化（写真 2-75）や凸凹（写真 2-76）が目立った。競技が行われるときは人々が集まり、行き交うことは承知しているが、開催中でもここまで閑散としているとは思わなかった。品川区内で予定されている競技場周辺に関しては、常に賑わいが創出されている状況を創らなくてはならないと考える。



写真 2-61 市街地の様相 バス内より筆者撮影

常に賑わいが創出されている状況



写真 2-62 オリンピック  
シティー ミュージアム 外観 筆者撮影



写真 2-63 オリンピック  
シティー ミュージアム 入口 筆者撮影

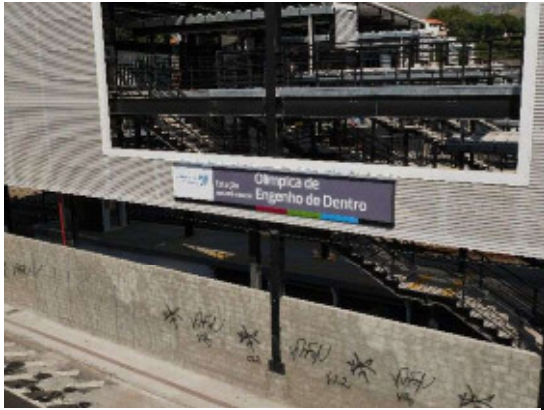


写真 2-64 Engenho de Dentro 駅 筆者撮影



写真 2-65 Olympic Stadium 筆者撮影



写真 2-66 駅南側の幹線道路 筆者撮影



写真 2-67 駅改札内の軍による警備 筆者撮影



写真 2-68 パラリンピック広告 筆者撮影

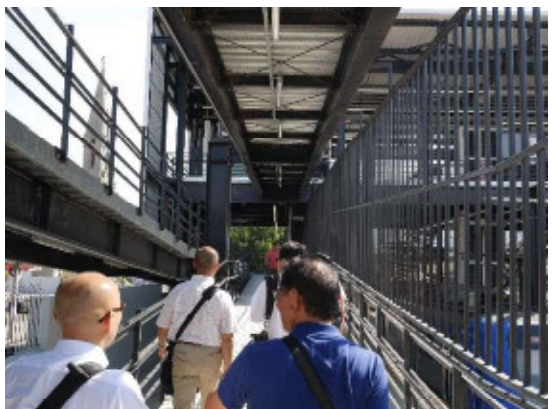


写真 2-69 長いスロープ 筆者撮影





写真 2-70 長い勾配のスロープ 筆者撮影



写真 2-71 スケールで角度を測る  
都市開発課長 筆者撮影



写真 2-72 閑散としたスタジアム周辺 筆者撮影

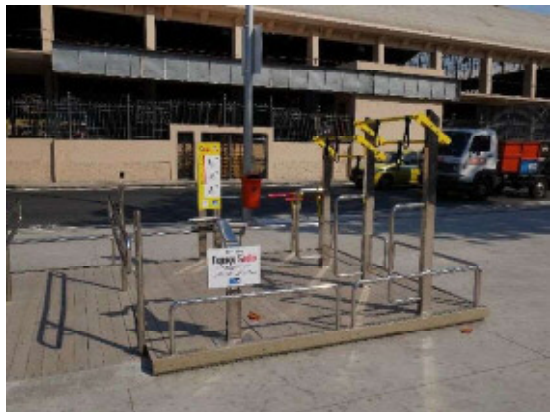


写真 2-73 健康器具 筆者撮影

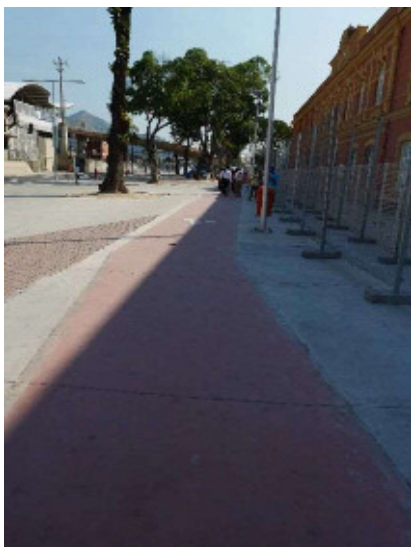


写真 2-74 サイクルロード 筆者撮影



写真 2-75 路面の劣化 筆者撮影



写真 2-76 路面の凸凹 筆者撮影



写真 2-77 チケットセンター 筆者撮影

### (3) Barra Shopping Center 内における昼食

昼食時間：14：45～15：45

ミュージアムを後に昼食をとるため次の目的地バーハにあるショッピングセンターを目指す。道中の丘陵部には小規模な密集した住居（写真 2-78）が確認できた。視察行程では交通事情等によりホテルでの朝食を除き全てがその場での判断。特にショッピングセンターは富裕層が多く来店することや、入口や店内に警備員が配置され比較的安

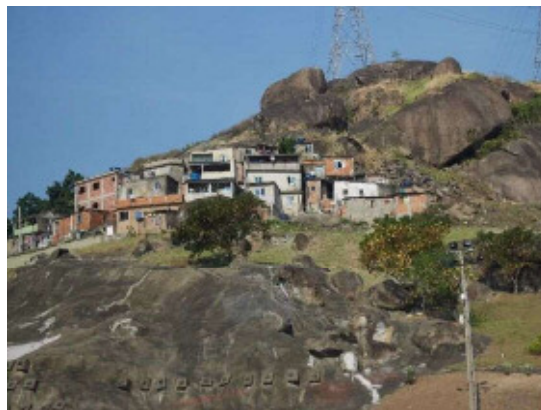


写真 2-78 密集した住居 バス内より筆者撮影

全であるためである。ショッピングセンターは広大な敷地の中に建てられ、多くの人々でにぎわっていた。時折、オリンピックの広告を目にする



写真 2-81 セグウェイ 警備員 筆者撮影

が、それほどオリンピックによる賑わいは感じられなかった。昼食（写真 2-79、2-80）といっ



写真 2-79 ショッピングセンター内のコーヒーショップ 筆者撮影



写真 2-80 コーヒーショップの様相 筆者撮影

てもコーヒー一杯であったが注文に時間がかかった。前述したように、指さしで分かる注文の仕組みは必要と考える。特に目を引いたのは、広い店内を警備員が移動するときにセグウェイ（写真 2-81）を使用していること。日本語で声をかけられ雑談をした。数十年前に千葉県に住んでいたそうだ。セグウェイは機動力があるので何かと利便性が良いと考える。品川区も競技大会開催に備え特区を利用してセグウェイの社会実験等を考えてもよいのではないかと。オリンピックミュージアムとの位置関係は図 2-4 を参照。



(4) Japan House 事前調査 視察時間：16：30～17：00

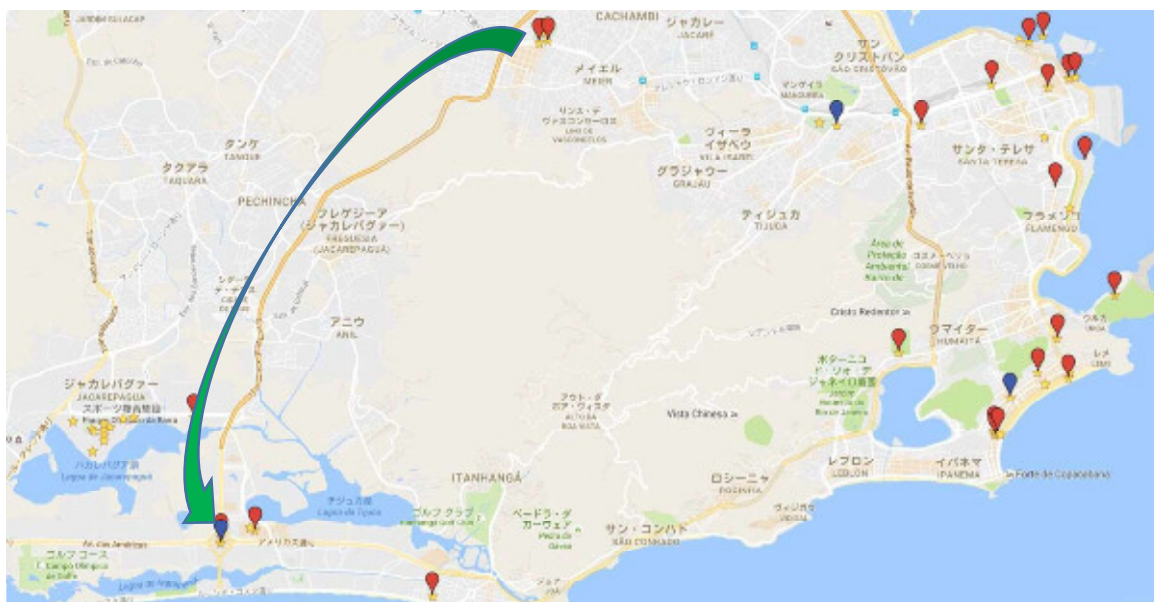


図 2-4 オリピックミュージアムと Japan House の位置関係 Google Map より筆者作成

Japan House (写真 2-82、2-83) が位置するのはバーハ (Barra<sup>8</sup>) の中心部にある Cidade das Artes<sup>9</sup>内に設置されていた。通常はリオデジャネイロの中心的な文化教育施設で芸術・シネマ・音楽など催しがある。

今回の視察は翌日の Reception 前に会場事前調査を行った。会場内では東京都のみならず日本全国の主要な観光名所 (写真 2-87) や出場



写真 2-82 Japan House (Cidade das Artes) 筆者撮影

選手の写真一覧 (写真 2-84)、東京五輪のスポンサーのブースなど五輪を盛り上げるための工夫がされていた。東京 2020 組織委員会 (写真 2-85)・東京都・関係各府省庁・パートナーエリア (写真 2-88)・リオデジャネイロ 2016 大会日本代表応援・自治体 (写真 2-86)・文化体験 (写

<sup>8</sup> リオデジャネイロでもっとも美しい地域の一つで、多くの五輪施設が設けられている。息をのむような風景が広がるバーラ・ダ・チジュカ地区には、メイン会場となる五輪公園や選手村をはじめ、14施設が集まる。五輪公園には五輪テニスセンターやカリオカアリーナなどが新設され、閉会後は五輪トレーニングセンターとして選手育成の拠点となる。公益財団法人日本オリンピック委員会第 31 回オリンピック競技大会競技場紹介 HP 引用

<sup>9</sup> 芸術等の複合文化施設

真 2-89)・在リオデジャネイロ総領事館連絡室 8 エリアに分かれそれぞれのエリアではゲストを楽しませる内容となっていた。この日もメインステージでライブ (写真 2-90) が開催され、多くの人々で賑わっていた。次の競技大会開催国である日本国が 2016 競技大会の中心部であるバーハに House を構えることは、大いに評価するところである。この場所を借りる折衝も開催の数年前から行っていたと考える。こうした事からリオ五輪終了後、早期に動き出さなければ出遅れてしまう可能性が大いにある。品川区の限られた面積の中で既存建物や公園等を利用した各国の House やスポンサー House の誘致を積極的に行うべきと考える。今 2020 年に向けて動き出しても遅いくらいである。尚、会場敷地の路面は相変わらず劣化等 (写真 2-91、2-92) が目立った。すべてを国民性で片づけてよいのか。路面の材質が劣化や凸凹の原因となっているのか? どちらにしても補修すべき個所はスピーディーに行うべきと考える。品川区もさらにスピーディーな対応をお願いしたい。



写真 2-83 Japan House  
入口付近 筆者撮影



写真 2-84 出場選手の一覧 筆者撮



写真 2-85 2020 東京の競技場紹介 筆者撮影



写真 2-86 自治体紹介 筆者撮影



写真 2-87 自治体観光地紹介 筆者撮影



写真 2-88 スポンサーブース 筆者撮影



写真 2-89 日本伝統・文化の紹介一部 筆者撮影



写真 2-90 メインステージの様子 筆者撮影





写真 2-91 敷地内遊歩道の路面 筆者撮影



写真 2-92 敷地内遊歩道の路面 筆者撮影

(5) Facebook 五輪責任者ヒアリング 視察時間：17：30～18：30

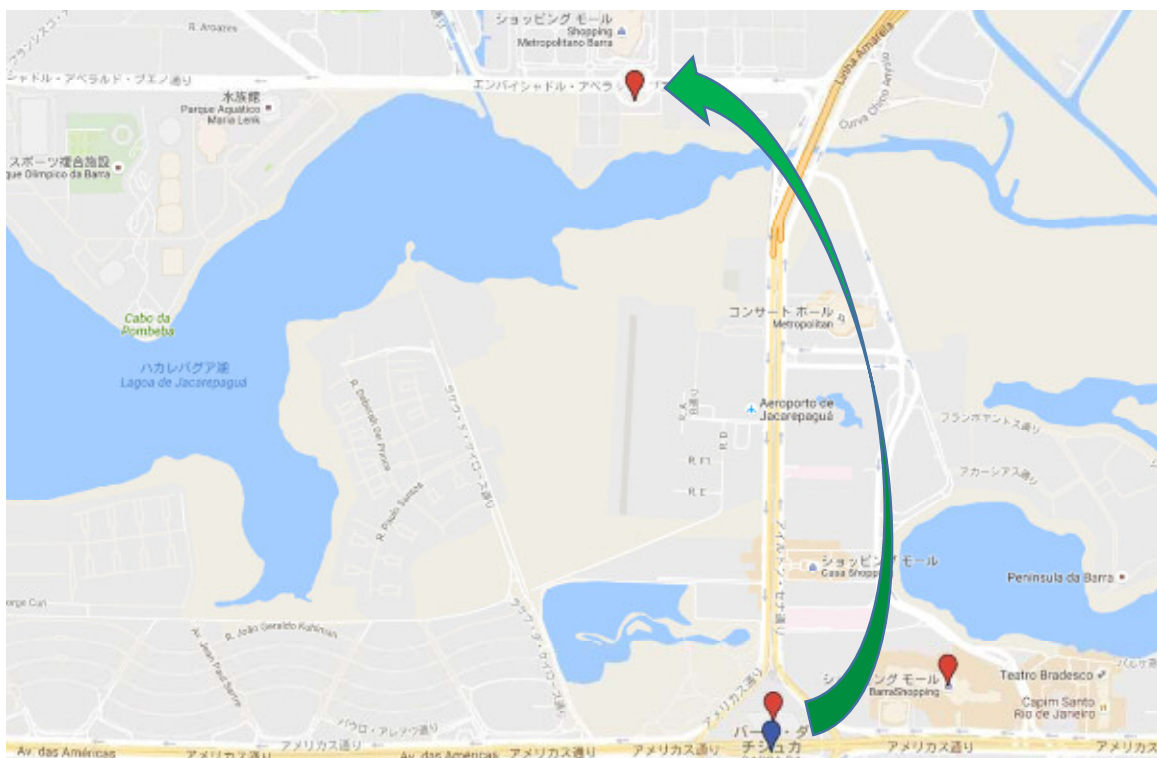


図 2-5 Japan House と NOVOTEL Parque Olimpico の位置関係 Google Map より筆者作成

Japan House から NOVOTEL Parque Olimpico (2-93) へ移動。(図 2-5) 日が暮れてテールランプやネオン等が目立つようになった。このホテルは競技大会開催の一年前に新規オープンしたホテルである。館内は会議室などを多く設けており競技大会関係者の宿泊には利便性を追求した造りになっている。通訳ガイドの江田氏の話では競技大会の開催に向けてリオデジャネイロ市内に 15,000 室のホテルの部屋を増やしたと語っている。このホテルもその一つであろう。あくまでも室数であり何棟建設したかは不明である。このヒアリングは東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の女性 3 人と

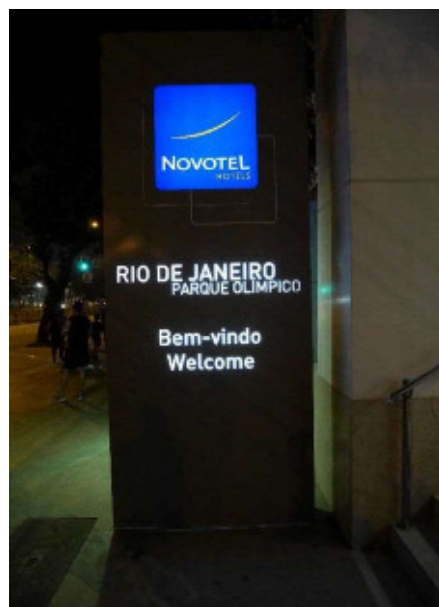


写真 2-93 NOVOTEL Parque Olimpico 筆者撮影

合流して行った。五輪開催機運を最大限に発信するための工夫などを確認した。フェイスブックという多くある SNS ツールの一つであるが、それを最大限に活用するには、その環境が必要である。後述するが、競技大会開催地周辺等の Wi-Fi 環境は極めてよくない。持参のスマートフォンで電波を拾うが多くが近隣ホテルの Wi-Fi であった。このため Facebook 担当者（写真 2-94）がムードを盛り上げるプロジェクトがあったとしても、それを発信する手段が必要である。主にインスタグラムはその時その場で目にしたものをアップするものであり、これが瞬時に拡散されることが情報の共有にもなる。品川区に当てはめるのであれば、既に行っている大井町駅周辺の Wi-Fi 環



写真 2-94 Facebook 五輪担当者 筆者撮影



写真 2-95 Facebook 五輪担当者との  
集合写真 筆者撮影

境の強化とこれからの設置場所への強化は必須であり、繁華街や競技場周辺にも設置は必要と考える。今後の都市型観光の推進を考えるのであれば、商店街や個の飲食店等に Free Wi-Fi の設置をする際の助成制度の創設に踏み切る時期に来ているのではないか。2016 年 9 月 16 日の NHK NEWS WEB で「無料 Wi-Fi 一度登録すれば全国的に利用可能へ<sup>10</sup>」の記事が掲載された。内容は外国人旅行者が公共施設や店舗な

<sup>10</sup>外国人旅行者が公共施設や店舗などに設置されている無料 Wi-Fi と呼ばれる無線通信に簡単に接続できるようにするため、一度登録すれば全国的に利用できるよう事業者が連携することを決めました。無料 Wi-Fi は、鉄道の駅やホテル、それに公共施設や店舗などで導入が進んでいます。これは、外国人旅行者が日本の携帯電話会社の通信サービスを使うと料金が高額になる場合があるとして、無料で使える Wi-Fi を増やしてほしいと要望していたことなどが背景です。しかし、サービスを提供する事業者や場所ごとにメールアドレスなどを入力する利用手続きが面倒だという声が上がっています。

このため、ソフトバンクや KDDI の子会社などの Wi-Fi 事業者は、今月中にも社団法人を作ったうえで、外国人旅行者向けのサービスとして、利用者が一度登録すれば提携する事業者の Wi-Fi を利用できるようにすることを決めました。社団法人は、サービスを利用する際の認証手続きや利用者への注意喚起などセキュリティ対策を検討し、1 年後をめどに全国の施設や店舗などでサービスの開始を目指します。複数の事業者が連携して無料 Wi-Fi サービスを全国展開するのは初めてとなります。

#### 外国人から利便性の悪さ指摘

外国人旅行者の増加が見込まれる 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、無料 Wi-Fi を使える場所は増え続けています。しかし、利用にあたっては事業者ごとに本人確認を求めるものがほとんどです。

例えば、無料 Wi-Fi に接続できる専用のアプリを使う場合、アプリをダウンロードしたうえで、利用規約への同意などを行うとインターネットにつながるようになります。また、アプリを使わない別の方法



どに設置されている無料 Wi-Fi と呼ばれる無線通信に簡単に接続できるようにするため、一度登録すれば全国的に利用できるよう事業者が連携することになった。こうした事業者との連携も必要不可欠である。品川区は幅広い観点で連携や整備を行うべきである。

さらに提案するのであれば、モバイル通信を行うと機器のバッテリーの消費が激しくなる。すべてのゲストが予備バッテリーを持参しているわけではないので、充電ステーションを設置することも否定できないであろう。どちらにしても、競技大会や観光に訪れたとき、満足して帰国してもらう事を考えるべきである。こうした、SNS (Facebook、インスタグラム、ライン、トリップアドバイザー等) を利用した自治体の発信は年々発展している。品川区でも世界に情報発信できるように積極的に取り組むべきである。Facebook 五輪担当者も終始、私たちの質問に好意的に答えていた。(写真 2-95)

ホテルは 4 つ星であったが、その周辺は悪路 (写真 2-96、2-97) が広がっていた。

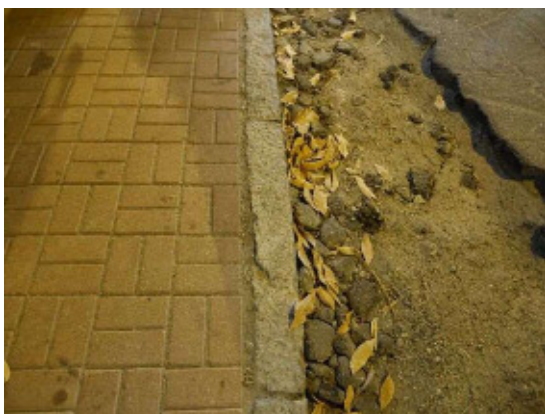


写真 2-96 ホテル周辺の道路 筆者撮影



写真 2-97 ホテル周辺の道路 筆者撮影

---

では、無料の専用電話番号にかけるとアナウンスされるパスワードのほか、自国で使っている電話番号などを入力し、利用規約に同意するとネットに接続されます。こうした手続きは、運営する事業者ごとに異なるため、全国各地を観光する外国人にとっては、移動する場所ごとに利用手続きを行わなければならない、その煩わしさや利便性の悪さが指摘されていました。メキシコから東京・渋谷を訪れた旅行者は「利用手続きは複雑だと思う。無料で使える Wi-Fi のスポットももっと増やしてほしい」と話していました。

(6) 大会ボランティアとのヒアリング 視察時間：20：20～22：00

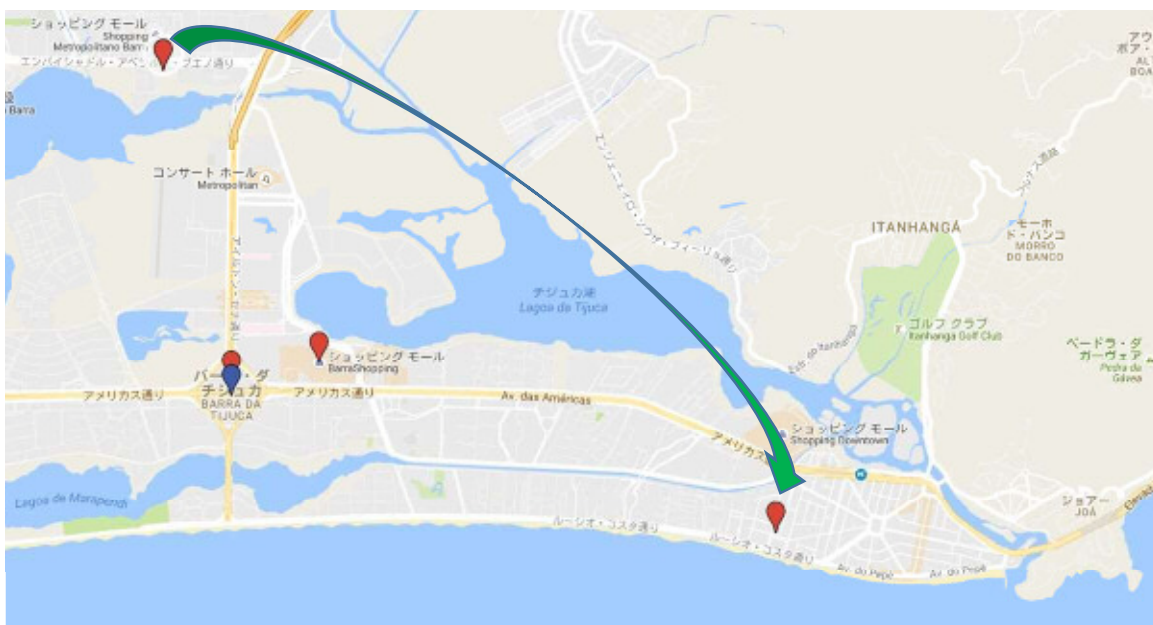


図 2-6 NOVOTEL Parque Olimpico と Tourão の位置関係 Google Map より筆者作成

18：30～20：20 大会ボランティア（4名）と合流してヒアリング会場に移動（図 2-6）した。この場で懇親をかねて夕食をとった。通訳ボランティアのメンバーは日本人が3名（うち一人は USA 在住）タイ人 1 名。視察団はボランティアの方々それぞれの視点で質問をした。写真 2-98 の右側の女性はアメリカに留学中でオリンピックのサイトで通訳ボランティアとして登録をした。来伯してから 7 人の女性語学ボランティアとシェアハウスで暮らしている。ボランティアは無給のため宿泊、食事、交通費等はすべて自費でなければならない。競技場へ往復や深夜にわたる仕事でも自費でなければならない



写真 2-98 ボランティアとのヒアリング 筆者撮影



写真 2-99 集合写真 筆者撮影

事を聞いて衝撃を感じた。競技大会が開催されると宿泊施設が取りづらく難儀したという。こうした現状を踏まえると品川区に語学ボランティア等の宿泊施設もしくはそれに類似するものや、情報交換の場を整備すること、各国のボランティアの中核となる施設の確保等も必要であり、後述するが民泊や簡易宿所等についても議論が必要である。無償で競技大会を下支えするボランティアを開催行政としてバックアップすることも必要である。写真 2-98 右側女性は卓球女子団体戦で銅メダルを獲得した福原愛選手の通訳を行った。東京競技大会で再会できることを誓い集合写真を撮った。(写真 2-99)

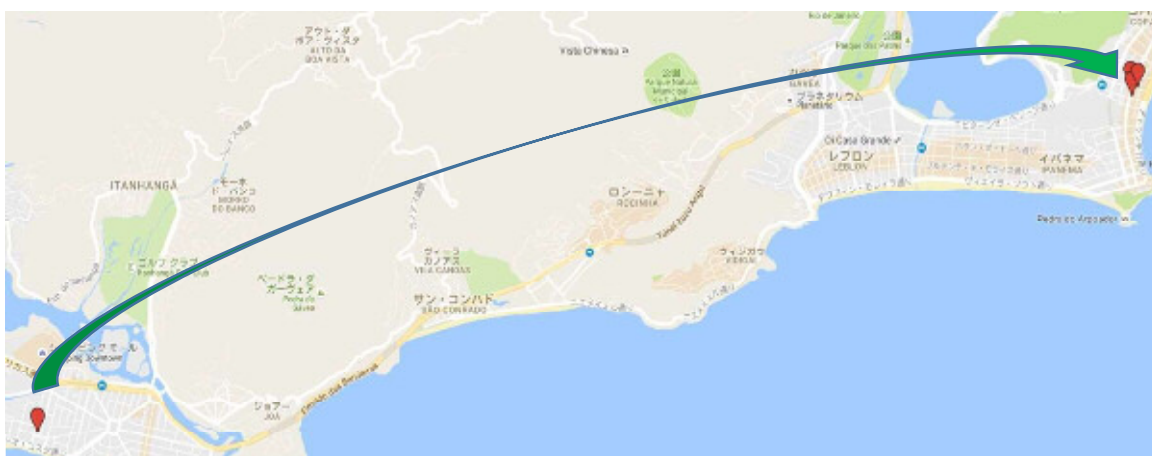


図 2-7 Tourão と宿泊ホテルの位置関係 Google Map より筆者作成

22:00～24:00 移動（図 2-7）しながら大会ボランティア宿泊施設をバス内より確認。宿泊施設への入場の規制と付近が危険なためバス内からの目視となった。24:00 宿泊ホテルに到着した。長い一日目の視察を終え 2:00 打ち合わせ後、就寝した。